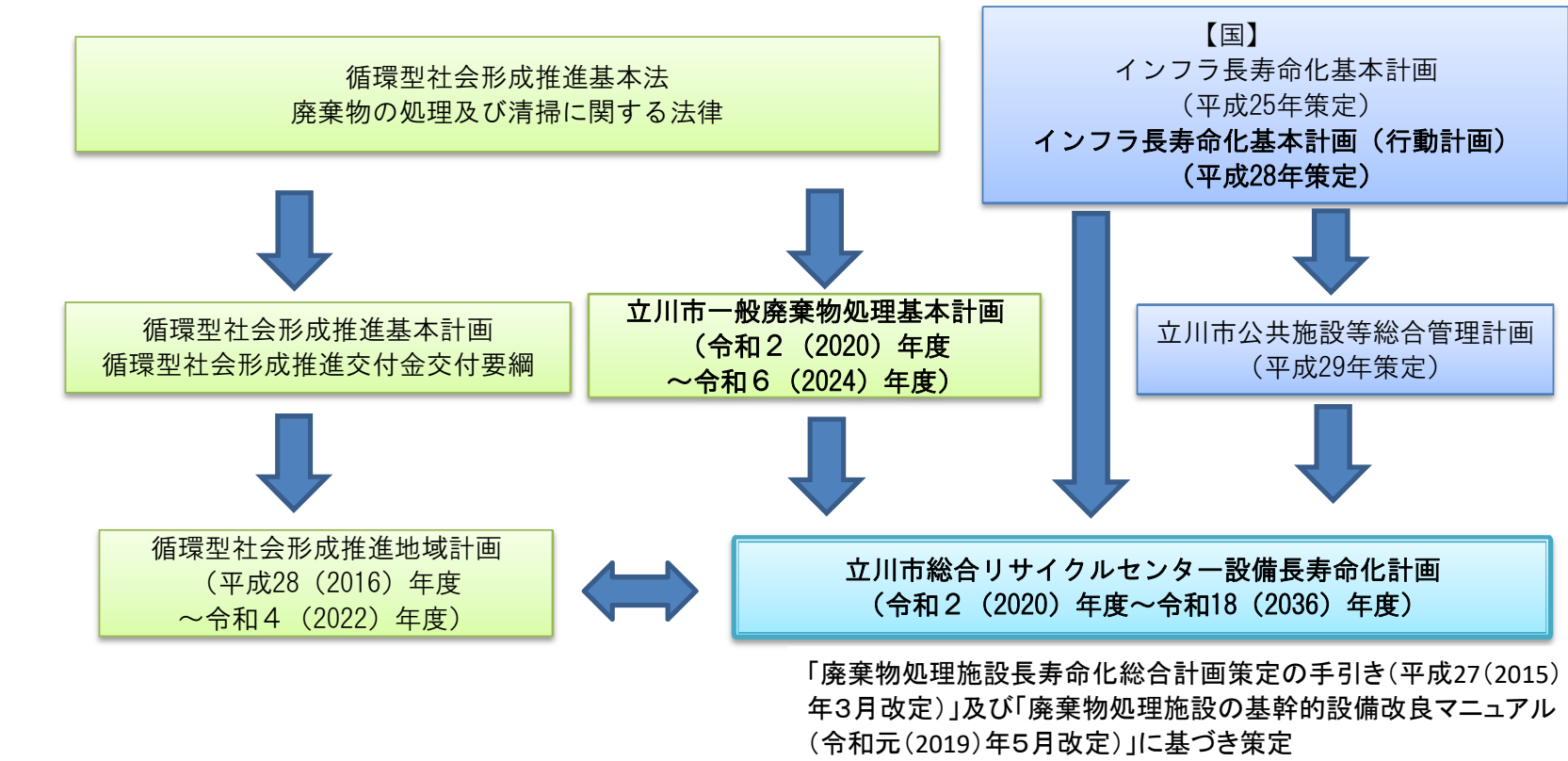


立川市総合リサイクルセンター設備長寿命化計画(案)の概要

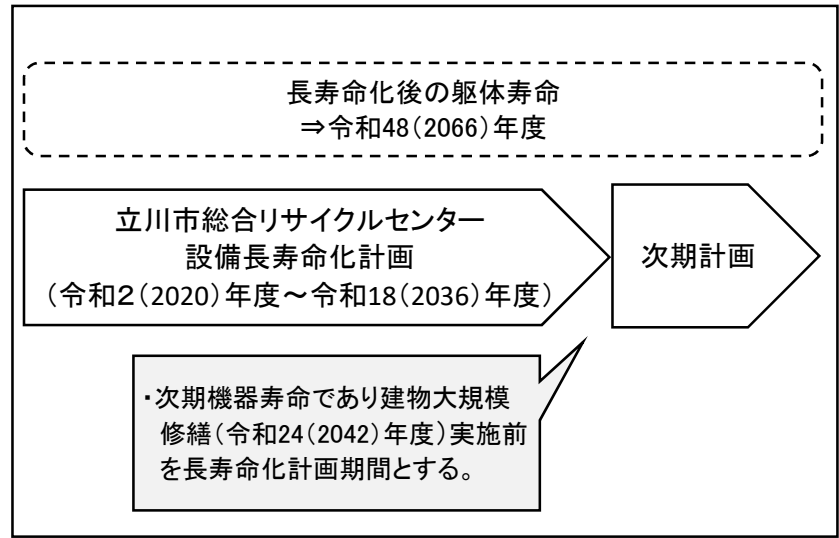
第1章 計画策定の基本事項 P1～3

計画策定の目的、計画の位置付け、計画期間、基本方針について記載しています。

◆計画の位置付け◆



◆計画期間◆



第2章 施設の概要と維持管理履歴 P4～10

施設の概要と維持管理履歴についてまとめています。

第3章 施設保全計画 P11～14

機器の保全方式や機器別の管理についてまとめています。

第4章 スtockマネジメント P15～23

ストックマネジメントについての確認や計画の工程、課題等についてまとめています。(別紙参照)

第5章 延命化計画 P24～49

延命化の効果や延命化計画についてまとめています。

LCC 比較検討結果(単位:千円)

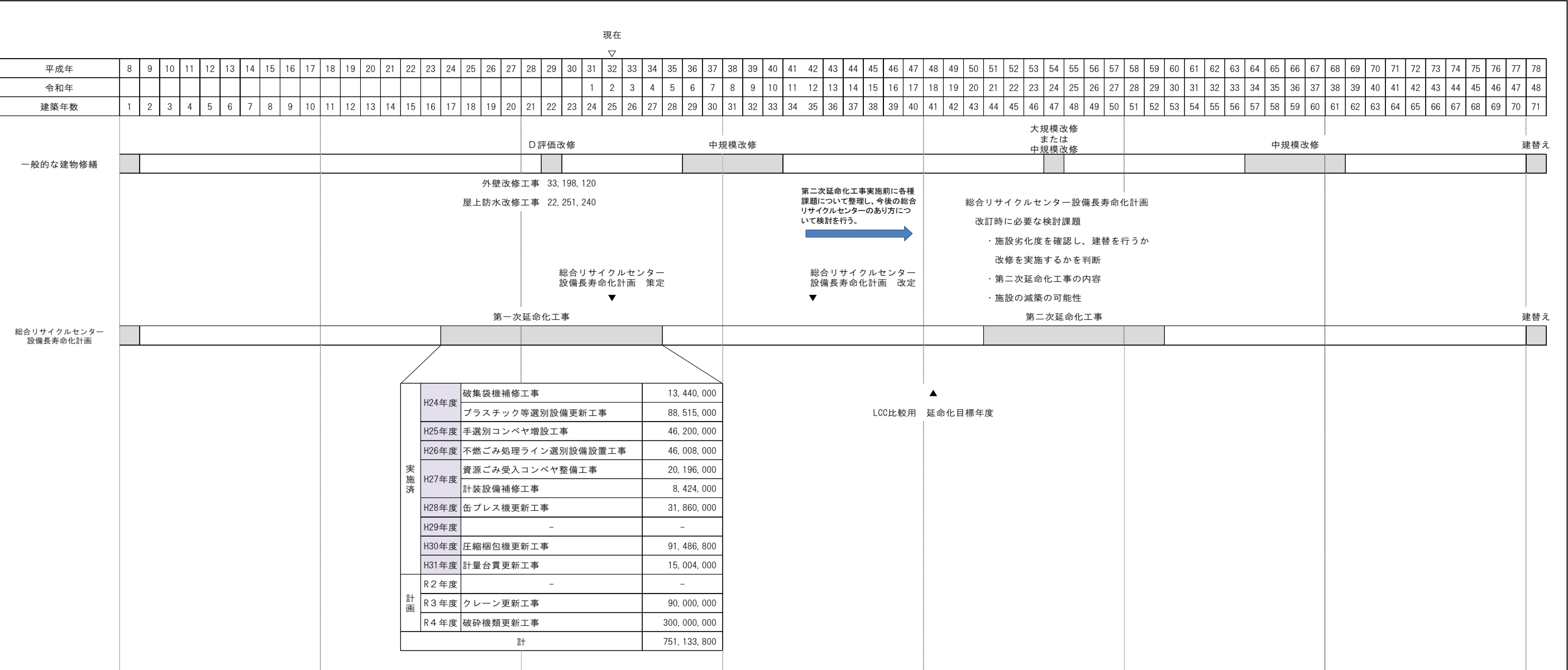
		延命化の場合	建替えの場合
稼働開始年度		平成8年度	令和5年度
延命目標年度		令和18年度	—
LCC	延命化工事費 (社会的割引率考慮後) ①	751,134 (591,206)	
	建設費 (社会的割引率考慮後) ②		
	点検補修費 ③	461,296	422,271
	残存価値 現施設 新施設 ④	0	1,253,000
	合計 (①+②+③-④)	1,052,502	1,675,262
評価		○	×

第6章 まとめ P51

本計画についてまとめています。

- ①建替えと延命化の比較
⇒ 延命化を行う
- ②延命化の工事内容
 - ・当該機器の機能回復
 - ・省エネルギー化によるCO2排出量削減
- ③次期計画の検討課題
 - ア 延命化または建替えの検討
 - イ 第二次延命化計画における更新工事の内容
 - ウ 施設の減築の可能性

一般的な建物修繕の時期と設備長寿命化計画の実施時期の比較



延命化工事実施時期の考え方について(P2、P21)

- ① 建物躯体の延命化後の寿命である令和48(2066)年度建替(リサイクルセンター稼働から70年目)を計画期間とする
 - ② 機器設備類の耐用年数は15～20年であるが、保全整備することで20～25年程度は健全な運転が可能である(機器保守事業者より)
 - ③ ①の70年を機器寿命である20～25年で分割する(平成8年度から平成30年度までの23年間、平成31年度から令和23年度までの23年間、令和24年度から令和48年度までの24年間)
 - ④ 機器設備類の寿命である各期間の切替わり前後に延命化工事を実施し、施設を安定的に移働させる(それぞれ第一次延命化工事、第二次延命化工事とする)
 - ⑤ 第二次延命化工事及び大規模改修または中規模改修の前である令和18年度をLCC検討対象期間終了年度とすることで、
 - 1) 建替を行うか、さらなる延命化を行うかの検討
 - 2) 延命化の場合、第二次延命化工事の内容、建物改修の内容、施設の減築の可能性を検討
- いずれの場合にも対応できるよう期日的柔軟性を確保した